

【近況活動報告】

昨年来、私の部署異動等によりなかなか活動報告を更新できずにおりました。不定期な更新になってしまい申しわけありませんが、高等科野球部の近況をご報告します。

〔和田副顧問（元監督）ご退職〕

高等科国語科教員であり、野球部の副顧問を務めていた和田先生が平成 25 年 3 月末をもってご退職なさいました。和田先生は、1990 年代から高等科野球部の顧問を務め、2004 年頃までは監督も務められました。2002 年には秋季ブロック予選を勝ち上がり、チームを本大会出場に導いており、最近も、副顧問という立場で野球部を献身的にサポートいただいております。長年にわたるご功労に敬意を表し感謝申し上げますと共に、今後益々のご活躍とご健勝を祈念申し上げます。

〔昨秋～冬～春にかけて〕

この松田の代は下級生の頃から真面目にコツコツと練習に取り組み、1 年の秋に野球ノートを書かせてもびっしりノートを埋めてくる代であった。野球の実力は、これまでの各年代に劣るかもしれないが、練習を強制しなくともこちらが止めるまで練習し続けるひた向きさがあり、野球に取り組む姿勢は、歴代で 1 番と言って良いかもしれない。私の業務も落ち着かず、練習に顔を出す時間が今まで以上に減ってきたことから、これまで秋季練習期間のみ書かせていた野球ノートを、新チーム結成以降、全員に書いてもらうことにし交換日記をスタートした。この野球ノートはベースボールクリニックという野球雑誌の付録を多少アレンジしたもので、A3 用紙 1 枚で一週間分のマス目があり、選手は一週間分ノートをつけて私に提出する。1 日分の記載項目は以下のとおり。

月 日 ()	今日の目標				
健康状態 良好・ふつう・不良	練習内容		課題、反省点、指導を受けたポイント		
体重 kg					
睡眠時間 : ~ :					
食事メニュー 朝					
昼	投球数		スイング数 (練習)	スイング数 (自宅)	自宅での学習時間、学習内容
夜	ランニング量	km			

一日の目標をしっかりと考えて、メニューを実行。反省点や食事メニュー、睡眠時間などを書き残していく。ゲームや練習内容が充実すると記入スペースが足りなくなるようで、用紙裏面まで書き込んでくる選手もいる。夏休みから書き始めて、これまでの野球ノートは選手の手元に 30 枚程残ってきている。毎週赤ペン先生ならぬ青ペン check でノートを返却。私と選手の大切なコミュニケーションツールであり、書きためてきたノートは選手にとっても私にとっても、またチームにとっても代え難い財産になってきている。もっとグラウンドで指導したいのだが、なかなか思うように仕事を抜け出せない。勤務時間外にノートを読んで簡単なアドバイスを書き込んで翌朝に返却。朝、時間があればノートを返しながら素振りやシャドーをチェックするといった感じだ。日頃のグラウンド練習は、大学 3 年生になったコ

一木の林がゼミの入った水曜日以外、毎日練習に参加してくれている。また林の同期であり、大学野球部に所属している瀬尾もよく練習を手伝ってくれている。この大学生のサポートは本当に助かっている。ノックなどの練習サポート、先輩としての精神的なサポート、年の近い先輩が後輩の面倒を見る。大学とキャンパスが一緒である学習院野球部ならではの良き伝統となっている。

秋季大会敗退後は、恒例の班別練習を実施しながら野球を深く考えることに取り組んだ。また、この代は走塁にこだわりを持たせている。全力疾走、駆け抜け、オーバーランの徹底など、練習試合でも各自が積極的に走塁に取り組む姿勢を見せている。守備、走塁など、スランプのないことに地道に取り組ませ、成果が表れるのをじっくり待つことにした。前記したとおり、この代は、昨年のような試合を安定させる好投手や強打者はおらず、夏休みから始まった練習試合は連戦連敗、大量失点が続いた。秋の終わりまで40数ゲーム行ったが4~5勝しかできず、大変苦しいものであった。そんな中、秋の練習試合の最終戦は、選抜甲子園出場が確定的であった安田学園と試合を組んでもらうことができた。秋の終わりに甲子園チームと戦う目標ができ、これが秋の練習のモチベーションにつながり本当にありがたいことであった。この試合は獨協大学主催の交流戦に招待される形となり、相手は秋季東京都大会に優勝し明治神宮大会に出場したフルメンバー。甲子園レベルとはどんなものか、秋季ブロック予選初戦敗退の学習院が、東京都優勝チームとどのくらい戦えるのか、不安と緊張の中、思い切って胸を借りた。2試合行い、1対9、1対8、どちらの試合も7回コールド負け。うちの主軸は長打を放つことができ、随所に秋の練習の成果を出すこともできたが、投手陣が踏ん張れず、四死球から崩れ失点を重ねてしまった。ただ、その日の選手たちのノートには、書き切れないくらいの感想がびっしり書いてあり、守備、走塁など、学習院がこだわって練習してきたものを、安田学園はこれでもかというくらい徹底していた、力の差は取り組みの差であると選手皆が感じることができたようだ。自分たちが取り組んでいることを徹底したその先に、安田学園のような強さが身に付くのではないかと、近くて遠い、けれど決して届かないレベルではないことを実感することができた。本当に良い経験をさせてもらった。

冬季練習は、恒例の天覧山トレーニングなどを行いながら、今年はチーム全員で体重増加を新たな目標に掲げてみることにした。筋力トレーニング以上に食事が重要、筋肥大をさせるには消費カロリーよりも摂取カロリーが上回ること、まずは一日3000kcalを目標に、練習の合い間に捕食（間食）を取り入れながら、3ヶ月でチーム平均4キロ増を目標に、最近太り気味の監督のダイエット分と選手それぞれの体重増加分を3ヶ月で競い合うことにした。結果は…監督が3ヶ月で4.6キロ減量に成功したのに対し、3年の東井が3ヶ月でなんと4.7キロ増量させ、チームで唯一監督賞の焼肉食べ放題をゲット。それ以外にも3キロ以上体重を増やした者が7名おり、食事＝体を大きくするという概念がチームに浸透し、なかなか良い取り組みであったと思う。（選手の中には数名、冬の間体重を減らした情けない者もいたが、まあ厳しい走り込みなどこなしているから許してあげることにしよう(-_-メ)

春季大会は、HPの試合結果を更新したとおり。東京都の春季ブロック予選は準備期間が非常に短い。3学期の期末試験が終わるのが3月上旬。そこから1年生は一週間スキー教室へ行ってしまう。全員が揃い練習再開してからブロック予選までは10日間もない。練習試合を数試合こなしてすぐに本番になってしまい、特に投手の調整が難しい。2月からシートバッティングなどで実戦感覚を取り戻すよう試みているが、気温が上がらず思うように調整が進まないのが現状だ。春のエース背番号は3年の前田。秋から冬にかけて体力がつき、球威が増してきていた。準備期間が少ない中、大会前の成蹊戦では1失点完投勝利。完投できるスタミナもついたようで、自信を持って春の公式戦マウンドへ送り出したが、力みから制球が乱れてしまった。前田が序盤でつかまる中、2番手でマウンドへ送り出した3年妹尾の調子がとても良かった。勝ち上がる大会には必ずラッキーボーイが出てくるのだが、この春のブロック

予選は間違いなく妹尾がラッキーボーイであった。リズム・テンポが良く、チームに流れを引き寄せてくれる。また、バッティングも思い切りが良く長打を放ち、チームに勢いをもたらせてくれた。大会前のノートを読むと、ゲーム途中から自分のピッチングで流れを変えることをテーマに、練習に取り組んでおり、自分で考えしっかり準備した成果が大会に表れていた。たいしたものである。ブロック予選は、2試合勝利し、代表決定戦で大敗。代表決定戦では、こだわって練習してきた走塁にミスが出たり、3試合を通じてバントの精度が低く、また守備も安定してきてはいるが、要所でエラーが出てしまった。守備と走塁、新チームからずっと取り組んできたことをもう一度夏の大会までに仕上げていくこと、これがチームとしての春以降の課題となった。

〔4月より〕

4月からチームに合流した新入部員は7名。3年12名、2年9名、合わせて28名となった。ここ数年と比べてしまうと1年生は少ない気もするが、3年前の林の代が7名、2年前の永田の代が6名であったことを思い出せば、さほど心配することもない。毎年、中等科野球部には20名弱の部員が在籍しているのだが、高校野球は毎日部活があり、日々の勉強や他大学受験の心配もあるのだろう、半分くらいは他の部活へ入部してしまう。けれどこればかりはしょうがないと思う。色々思い悩んだ末の選択なのであろうから。その分、高校野球の道を選んでくれたこの7名には、充実した高校生活を送ってもらいたいと切に願っている。最初は勉強と部活の両立に苦労することも多いであろうが、誰しもの道である。努力、青春、感動、自分で選んだ道に信念を持ち熱い高校野球生活を送ってもらいたい。

新学期が始まってからは、以下のとおり、3年と1・2年でメニューを分けている。この時期は体力差もあるので、3年は週末の練習試合に備え実戦練習を充実させ、1・2年はトレーニングを充実させながら、週に一度ゲーム形式の練習を組み込み新チームの準備を少しずつ始めている。

	【3年】 【野手】					【投手】				
	15:30~	16:00~	17:00~	18:00~	18:30	15:30~	16:00~	17:00~	18:00~	18:30
火	アップ	トレ①	CB・ノック	G整備	解散	アップ	トレ①	ブルペン	G整備	解散
水	アップ	フリー	班別・走塁	G整備	解散	アップ	フリー	班別・走塁	G整備	解散
木	アップ	レフト-half or トレ② or 手伝い		G整備	解散	アップ	レフト-half or トレ② or ブルペン		G整備	解散
金	アップ	フリー	CB・ノック	G整備	解散	アップ	フリー	CB・ノック	G整備	解散
土	オープン戦(13:30~清掃を30分実施、14:00~全体アップ、15:00 過ぎグラウンドイン)									

	【1・2年】 【野手】					【投手】				
	15:30~	16:00~	17:00~	18:00~	18:30	15:30~	16:00~	17:00~	18:00~	18:30
火	アップ	フリー	トレ②	G整備	解散	アップ	フリー	トレ②	G整備	解散
水	アップ	トレ①	班別・走塁	G整備	解散	アップ	トレ①	班別・走塁	G整備	解散
木	アップ	紅白戦		G整備	解散	アップ	紅白戦		G整備	解散
金	アップ	トレ①	CB・ノック	G整備	解散	アップ	トレ①	CB・ノック	G整備	解散
土	オープン戦(13:30~清掃を30分実施、14:00~全体アップ、1・2年は13:30までに試合用具準備)									

3時間のメニュー構成になっているので、個々の練習量はさほど確保できないことから、朝練を行い、ノックやティーの量は朝練でカバーしている。この朝練の40分はとても貴重である。内野と外野を日によって分け、ノックをポジション毎に打ち分ける。40分間で選手は40~50本のノックを受けることができる。グラウンドのない学校が都内に多数あることを考えれば、学習院のこの環境は大きなアドバンテージである。特に外野は、ポジションについて40分間四方に打球を追うことができ、こんな恵ま

れた環境はなかなかあるものではない。この朝練の充実は、学習院の財産であることを選手も自覚しており、朝早くから活気ある声がグラウンドに響いている。

4月の練習メニューの安定が、ここ最近のチームの安定につながってきているように思う。選抜甲子園に出場し、春の都大会でも勝ち上がり夏のシード権を獲得したばかりの安田学園が、まともや試合を組んでくれた。安田学園の監督・部長には本当に頭が上がらない。夏に向けチームを立て直す大事な時期に、また胸を貸してくれると言うのだ。さすがにエースは休養となったが、野手はレギュラークラスを出してくれ、また投手も監督によれば来年のエースとして期待している2年生を先発にしてくれた。ありがたい限りだ。ゲームは、春までショートだった市原を先発させ、セカンドの大場をショートとして試してみる。このコンバートが思ったより良い。市原の制球の良さでチーム全体にリズムが生まれ、またショート大場もよく足が動き守備範囲も広い。守備が安定し、コースコアの展開に持ち込むことができた。うちが先制したが中盤に逆転され終盤へ。レフト盛野の好守もあり、追加点を許さなかった。8回に3番松田のタイムリーで追いつき、結局2対2引き分けで試合終了。力のあるチームに粘り強く戦うことができ大きな自信を得ることができた。またゲーム後は、相手監督の計らいで学習院と安田学園のメンバーで合同ノックに。甲子園に出場した選手たちと一緒にノックを受けることができ、これもまたうちの選手たちは非常に良い経験になったことだろう。貴重な機会を設けていただいた安田学園には感謝の念が堪えない。

チームの当面の目標は5月GWの連戦で、夏の大会へ向け選手個人個人とチーム全体のスタミナをつけること。ダブルヘッダーが続く中で、体力・集中力を磨き、夏の大会、試合終盤の底力を身に付けていきたい。GWが終われば、中間試験後、すぐに附属戦、そして夏の大会まで残り1ヵ月となっていく。今年もまた、熱い附属戦、熱い夏の大会にしていきたいと思う。3年生がチーム結成当初に掲げたスローガン「Challenger 勝利の女神は些事にあり」決して強くはないけれど、細かいことにこだわって徹底して攻め抜いていく粘り強いチームを目指していく。3年生のラストスパート、チームの心が1つになっていく姿を期待していただきたい。

〔最後に〕

先日、高等科野球部OBであり、2006年に学生監督を務めていた金尾元信さんがボール1ダースを持ってグラウンドへ激励に訪れてくれた。現在は社会人になり、仕事の傍ら学習院に立ち寄り差し入れを置いていってくださった。久しぶりに高等科野球部の練習を見に来たようで、活気ある練習を多いに褒めてくださり、たくさんの励ましのお言葉をいただいた。この場を借りて御礼を申し上げたい。日頃より陰ながら応援して下さるOBやOBご父母がたくさんいること、これも学習院高等科野球部の財産。学習院グラウンドでの練習試合には、OBご父母がよく応援に来てくださる。自分の息子が引退しても高等科野球部を応援してくれている。試合後にゆっくり話をしたいと思うのだが、皆さん現役に配慮なさってさっと帰ってしまう。なかなか御礼を申し上げる機会がないので、こちらこの場をお借りして御礼を申し上げたい。いつもご観戦いただきありがとうございます。

また、選手よりも朝早く起きてお弁当を作っている現役のご父母には一番頭が上がらない。朝練のある日はいったい何時に起床しているのだろう。本当にありがたいと思っている。色々な方のサポートがあって充実した部活動になっていること、選手も私も忘れずに日々を送っていきたい。

以上